

2022年の『ユリシーズ』—スティーヴンの読書会  
Wandering Books テーマ別作品リスト (2019~2022)

Wandering Books という対面実施／オンライン実施の際に企画していたテーマ別に募った作品リストの選集です。皆様のご協力のおかげで、計400冊以上の作品が集まりました。今後の読書計画にお役立ていただければ幸いです(尚、Google Formで参加者の皆様に記入いただいた記述によっているため、出版社・出版年の記載のない項目があり、重複している作品もそのまま記載しています。また大変恐縮ですが、リスト書きにする都合上、作品と合わせていただいたコメントについては割愛させていただきました)。

## 目次

1. 印象深い死、忘れがたい死に関する作品リスト-----1~2
2. 「食べること」に関する作品リスト-----2~3
3. 「知的な」あるいは「脳」に関する作品リスト-----3-4
4. 地図がついている／地図が関連している作品リスト-----4~5
5. 音楽と関連をもっている作品 or 音楽が印象的な映画作品リスト-----5-6
6. 「巨大なもの」が登場する作品リスト-----6
7. 最も難解であった小説／映画リスト-----6-7
8. 幻想的な印象の小説リスト-----7-8
9. 「嘘」や「虚言」、「だまし」や「詐欺」が重要な役割を果たす作品リスト-----9-10
10. 「帰ること」に関する作品リスト-----10-11
11. 「女性の語り」が重要な役割を果たす作品リスト-----11-13

### 1. 印象深い死、忘れがたい死に関する作品-----

- フォークナー”As I Lay Dying”
- 村上春樹『ノルウェイの森』『ねじまき鳥クロニクル』
- 『ノスタルジア』(映画、タルコフスキー監督、1983年)
- 『サタンタンゴ』(映画、タル・ベエラ監督、1994年)
- 『虞美人草』(夏目漱石、岩波文庫、初版は1907年) ”
- コナン・ドイル『最後の事件』BBCドラマ『シャーロック』
- Shakespeare, *Julius Caesar*
- Tolstoy, *Anna Karenina*
- Thomas Mann “Death in Venice”
- 三島由紀夫『豊穡の海』
- Thomas Hardy, *Jude the Obscure*
- フラナリー・オコナー『善人はなかなかいない』
- アルゴナウタイ (ギリシャ神話)
- 「黄色い雨」フリオ・リヤマサーレス木村榮一訳
- ドナルド・バーセルミ『死父』『魔法少女まどか☆マギカ』

2022年の『ユリシーズ』—スティーヴンの読書会  
Wandering Books テーマ別作品リスト (2019~2022)

- ジュリアン・バーンズ『人生の段階』(新潮クレスト・ブックス、2017年)
- 「ライフ・イズ・ビューティフル」「ベティ・ブルー」「レオン」フロベール『純な心』
- サミュエル・ベケット『初恋』
- ヴァージニア・ウルフ『灯台へ』
- マルセル・プルースト『失われた時を求めて』(吉川一義訳/岩波文庫)
- ミラン・クンデラ『存在の耐えられない軽さ』(西永良成訳/集英社文庫)
- 町田康『告白』(中公文庫)
- 小島信夫『抱擁家族』
- アッバス・キアロスタミ『桜桃の味』Taste of Cherry (イラン、1997年)
- 『見出された時～「失われた時を求めて」より～』(1999年)
- 梅崎春生『赤い駱駝』(浅田次郎編『見上げれば星は天に満ちて』文春文庫)
- 『ダンス・ダンス・ダンス』(講談社文庫、1991年)
- 『灰とダイヤモンド』(映画、アンジェイ・ワイダ)
- カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』(マーク・ロマネク監督)
- トマス・マン『ヴェニスに死す』(岩波・新潮・集英社文庫他)
- D・H・ロレンス、小野寺健・武藤浩史訳『息子と恋人』(ちくま文庫、2016年)
- ヘルマン・ヘッセ「デミアン」
- ジョージ・オーウェル 動物農場 (早川文庫)
- デュマ『椿姫』
- 鴨長明『方丈記』
- カミュ『異邦人』
- Kazuo Ishiguro, *Never Let Me Go*
- James Joyce, "The Dead"
- 『ファイナルファンタジー10』
- 『気狂いピエロ』
- サルガッソーの広い海』
- ヴァージニア・ウルフ『フラッシュ』
- 三島由紀夫『豊饒の海』
- トルストイ『イワン・イリイチの死』
- 佐野洋子『100万回生きた猫』

2. 「食べること」に関する作品

---

- 吉行淳之介編『酔っぱらい読本』講談社、2012年
- 吉本ばなな『キッチン』(新潮文庫、2002年)
- 筒井康隆『葉菜飯店』(新潮社、1988)
- サミュエル・ベケット『クラブ～最後のテーブル』(白水社 2008年)

2022年の『ユリシーズ』—スティーヴンの読書会  
Wandering Books テーマ別作品リスト (2019~2022)

- 石牟礼道子『石牟礼道子全集・不知火(第10巻)』「食べごしらえ おままごと」(藤原書店 2006年)
- 『聞き書 日本の食生活全集』(農山漁村文化協会 1990年)
- 莫言『紅い高粱』1979年
- 尾田栄一郎『ワンピース・海の上のコック編』1997年
- ヘンリー・ミラー『南回帰線』(講談社文芸文庫、2001年 [1939年])
- 映画『ニーチェの馬』(タル・ベール監督作品 日本公開 2012年 ハンガリー映画)
- 村瀬学『食べる思想』洋泉社、2010年
- ドミニク・レステル『肉食の哲学』(左右社、2020年)
- 太宰治『津軽』新潮文庫、2004年
- 上橋菜穂子『守り人のすべて』(偕成社、2016年)
- 森瑤子「デザートはあなた」(朝日新聞社、1991年)
- イサク・ディーネセン『バベットの晩餐会』ちくま文庫、1992年
- 開高健『食卓は笑う』新潮文庫、1986年
- アン・リーの「飲食男女」
- ルーシー・モンゴメリ『赤毛のアン』(新潮文庫)
- 石牟礼道子『食べごしらえおままごと』(中公文庫)
- 辺見庸『もの食う人びと』(角川文庫)
- 本橋成一『うちは精肉店』(農文協)
- 瀧川あや監督『ある精肉店のはなし』
- イサク・ディーネセン『バベットの晩餐会』ちくま文庫
- 森茉莉『貧乏サヴァラン』(ちくま文庫、1998年)
- ロラン・バルト「水と破片」「箸」「中心のない食物」『表徴の帝国』宗左近訳、筑摩書房、1999、2006年
- ジョージ・ギッシング「冬5~11」『ヘンリ・ライクロフトの私記』平井正穂訳、岩波書店、1961、2006年
- Hearn, Lafcadio. "Jikininki" *Kaidan: Stories and Studies of Strange Things*. Tuttle, 1971.
- アン・リー『飲食男女』
- イサク・ディーネセン『バベットの晩餐会』ちくま文庫、1992
- 開高健『食卓は笑う』新潮文庫、1986

3. 「知的な」あるいは「脳」に関する作品

- 映画『インセプション』2010年
- リチャード・ドーキンス『利己的な遺伝子』—増補改題『生物=生存機械論』日高敏隆他訳(紀伊國屋書店)
- オルダス・ハクスリー『すばらしい新世界』(早川文庫)

2022年の『ユリシーズ』—スティーヴンの読書会  
Wandering Books テーマ別作品リスト (2019~2022)

- ミハイル・ブルガーコフ『犬の心臓・運命の卵』(新潮文庫)
- リチャード・パワーズ『エコー・メイカー』(新潮社)
- 倉橋由美子『ポポイ』(新潮文庫、1987年)
- オリヴァー・サックス『音楽嗜好症』(早川書房、2010年)
- ジュリア・クリステヴァ『記号の解体学セメイオチケ 1』原田邦夫訳(せりか書房、1994年)
- ボルヘス『伝奇集』岩波文庫
- ローラン・ビネ『言語の七番目の機能』高橋啓訳(東京創元社、2020年)
- メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』
- ダニエル・キイス『アルジャーノンに花束を』小尾芙佐訳(早川書房、2015年)
- スィフト『ガリヴァー旅行記』平井正穂(岩波文庫、1999年)
- ジョルジュ・ペレック『煙滅』塩塚秀一郎訳(水声社、2010年)
- ハーマン・メルヴィル『白鯨』
- リチャード・パワーズ『ガラテア 2.2』若島正訳(みすず書房、2001年)
- ジル・ボルト・テイラー『奇跡の脳』竹内薫訳(新潮文庫、2009年)
- J.D.サリンジャー『大工よ、屋根の梁を高く上げよ シーモア—序章—』野崎孝・井上謙治訳(新潮社文庫、1980年)
- カート・ヴォネガット『ガラバゴスの箱舟』浅倉久志訳(早川文庫、2010年)
- ポール・ヴァレリー『ムッシュー・テスト』清水徹訳(岩波文庫、2004年)
- コリン・デクスター『キドリントンから消えた娘』(ハヤカワ・ミステリ文庫、1989年)
- ベケット『名づけえぬもの』安藤元雄訳(白水社)
- ダニエル・キイス『アルジャーノンに花束を』小尾芙佐訳(ハヤカワ文庫 2015年)
- ジル・ボルト・テイラー『奇跡の脳』竹内薫訳(新潮文庫、2009年)

4. 地図がついている／地図が関連している作品

- ルネ・ドーマル『類推の山』巖谷国土訳(河出書房新社、2006年)
- ピンチョン『ヴァインランド』佐藤良明訳(新潮社、2011年)
- ヒュー・ルイス=ジョーンズ編『ファンタジーの世界地図』栗原紀子訳(東京堂出版、2019年)
- ジョナサン・スウィフト『ガリヴァー旅行記』(岩波書店、1980年)
- 安部公房『燃えつきた地図』(新潮社、1976年)
- 『桃太郎電鉄シリーズ』さくまあきら作(ハドソン他、1988-2020)
- リチャード・パワーズ『舞踏会へ向かう三人の農夫』(河出文庫、2000年)
- ウラジミール・ナボコフ『ロリータ』若島正訳(新潮社、2006年)
- 天沢退二郎『オレンジ党と黒い釜』(筑摩書房、1978年)
- トニ・モリスン『パラダイス』大社淑子訳(早川書房、1999年)
- 『桃太郎電鉄シリーズ』さくまあきら作(ハドソン他、1988-2020)
- ウィリアム・フォークナー『アブサロム、アブサロム!』(岩波文庫)

2022年の『ユリシーズ』—スティーヴンの読書会  
Wandering Books テーマ別作品リスト (2019~2022)

- 河口慧海『チベット旅行記』（講談社学術文庫）
- Miles Harvey, *The Island of Lost Maps: A True Story of Cartographic Crime*(Random House, 2000)/日本語版：マイルズ・ハーベイ著、島田三蔵訳『古地図に魅せられた男』（文春文庫, 2001年）
- 鷺田清一『京都の平熱 哲学者の都市案内』（講談社、2007年）
- 中上健次『十九歳の地図』（『文藝』1973）（河出文庫、1981年）
- ジョージ・エリオット『ミドルマーチ』（廣野由美子訳、光文社古典新訳文庫、2019-21年）
- 夏目漱石『三四郎』
- 村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』（新潮社、1985年）
- 宮沢章夫『ヒネミ』（白水社）
- シェイクスピア『リア王』（訳者、出版社様々）、泉鏡花『高野聖』（岩波文庫、1992年）
- 角幡唯介『空白の五マイル』（文藝春秋、2010年）
- ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』
- スウィフト『ガリヴァー旅行記』平井正穂訳（岩波文庫、1980年）
- マルサー・ルドウレダ『ダイヤモンド広場』田澤耕訳（岩波書店、2019年）
- トマス・ハーディの作品群
- ヘンリー・キッシンジャー『外交』（岩波書店、1996年）

5. 音楽と関連をもっている作品 or 音楽が印象的な映画作品-----

- 幸田文『流れる』（新潮文庫、2006年）
- 『バロック協奏曲』カルペンティエール
- ニノ宮知子『のためカンタービレ』
- マヌエル・プイグ『蜘蛛女のキス』
- 映画『ベニスに死す』
- 映画『マネーボール』ベネット・ミラー監督、2011年
- Kerris Dorsey, *The Show*
- *The Sound of Music*、ロバート・ワイズ監督
- 泉鏡花『歌行燈』
- アンナ・スメイル『鐘は歌う』山田順子訳（東京創元社、2018年）
- Kazuo Ishiguro『Never Let Me Go』（Faber & Faber; Main）
- マルセル・ブルースト、吉川一義訳『失われた時を求めて』
- マルセル・ブルースト、吉川一義訳『囚われの女 I』（岩波書店）
- 映画『ディーバ』（Diva）ジャン=ジャック・ベネックス監督
- 『家族を想うとき』ケン・ローチ監督
- Dylan Thomas, *Under Milkwood*
- ロマン・ロラン『ジャン・クリストフ』

2022年の『ユリシーズ』—スティーヴンの読書会  
Wandering Books テーマ別作品リスト (2019~2022)

- いしいしんじ『麦ふみクーツェ』
- リチャード・パワーズ『オルフェオ』

6. 「巨大なもの」が登場する作品-----

- 映画『インデペンデンスデイ』ローランド・エメリッヒ監督, 1996年
- 芥川龍之介「鼻」『日本現代文学全集 24 芥川龍之介集』(講談社、1981年)
- ドナルド・バーセルミ『死父』柳瀬尚紀訳(集英社、1990年)
- 島田雅彦『パンとサーカス』
- アニメ『マクロス』
- スタニスワフ・レム『砂漠の惑星』(ハヤカワ文庫、2006年)
- ジョージ・オーウェル『1984年』
- スウィフト『ガリヴァー旅行記』『プロブディンナグ国渡航記』(岩波文庫)
- 吉村萬壺『臣女』
- 飛浩隆『零號琴(れいごうきん)』(早川書房、2018年)
- 諫山創『進撃の巨人』(講談社コミックス)
- Roald Dahl, *The BFG* (『オ・ヤサシ巨人』)
- フランツ・カフカ『城』(新潮文庫、1971年)
- 吉村萬壺『臣女』(徳間文庫、2016年)
- メルヴィル『白鯨』
- ジョナサン・スウィフト『カリバー旅行記』
- 映画『タイタニック』
- 薄井ゆうじ『星の感触』(講談社文庫)
- 『ジャックと豆の木』
- ボルヘス『バベルの図書館』(『伝奇集』所収、岩波文庫、1993年)

7. 最も難解であった小説／映画-----

- ジェイムズ・ジョイス『フィネガンズ・ウェイク』
- James Joyce, *Finnegans Wake*, 1939
- 小栗虫太郎『黒死館殺人事件』
- 夢野久作『ドグラ・マグラ』
- 映画『去年マリエンバートで』
- ジェイムズ・ジョイス『フィネガンズ・ウェイク』
- 映画『ストーカー』タルコフスキー監督
- ボルヘス『異端審問』
- 二葉亭四迷『浮雲』
- ナボコフ『淡い炎』

2022年の『ユリシーズ』—スティーヴンの読書会  
Wandering Books テーマ別作品リスト (2019~2022)

- エーコ『フーコーの振り子』
- ステファヌ・マラルメ『イジチュールまたはエルベノンの狂気』
- Virginia Woolf, *The Waves*
- アンゲロプロス『ユリシーズの瞳』
- 映画『フルスタリョフ、車を!』(1998年 フランス=ロシア)
- コルタサル『愛しのグレンダ』
- アンドレイ・ルブリョフ (アンドレイ・タルコフスキー監督作品)
- 『シン・エヴァンゲリオン』
- ジョルジュ・ペレック『人生使用法』酒詰治男訳 (水声社、1992年)
- サミュエル・ベケット『名づけえぬもの』
- ジェイムズ・ジョイス『フィネガンズ・ウェイク』
- フォーゲル・デボラ『アカシアは花咲く—モンタージュ (東欧の想像力)』
- 映画『サテュリコン』フェデリコ・フェリーニ監督
- 映画『神々のたそがれ』(アレクセイ・ゲルマン監督)
- 映画『仮面/ペルソナ』(ベルイマン監督)
- ウンベルト・エーコ『フーコーの振り子』藤村昌昭訳 (文藝春秋、1999年)
- トマス・ピンチョン『重力の虹』

8. 幻想的な印象の小説

---

- フローベール『聖アントワーヌの誘惑』渡辺一夫訳 (岩波文庫、1986年)
- 村上春樹『騎士団長殺し』
- 紫式部『源氏物語』
- 庄野英二『星の牧場』
- 中勘助『犬』
- トルーマン・カポーティ『ミリアム』
- トカルチュク『昼の家、夜の家』小椋彩訳、白水社
- フラン・オブライエン『第三の警官』
- 残雪『最後の恋人』近藤直子訳 (平凡社、2014年)
- カズオ・イシグロ『充たされざる者』古賀林幸訳 (ハヤカワ epi 文庫、2007年)
- 泉鏡花『高野聖』
- アシモフ『神々自身』小尾美佐訳 (ハヤカワ文庫 SF、1986年)
- ウラジーミル・ソローキン『青い脂』望月哲男・松下隆志訳 (河出書房新社、2012年)
- エドゥアール・デュジャルダン『もう森へなんか行かない』鈴木幸夫・柳瀬尚樹訳 (都市出版社、1971年)
- シュペルヴィエル『海に住む少女』永田千奈訳 (光文社古典新訳文庫)
- アントニオ・タブッキ『ベアト・アンジェリコの翼あるもの』古賀弘人訳、青戸社

2022年の『ユリシーズ』ースティーヴンの読書会  
Wandering Books テーマ別作品リスト (2019~2022)

- 筒井康隆『夢の木坂分岐点』
- 李學仁 (原作・原案)、王欣太 (作画)『蒼天航路』
- 『ゼロ・グラビティ』アルフォンソ・キュアロン監督
- 村上春樹『羊を巡る冒険』
- 三島由紀夫『豊饒の海一天人五衰』
- 村上春樹『騎士団長殺し』
- TVドラマ『ツイン・ピークス』デイヴィット・リンチ監督
- カルヴィーノ『見えない都市』(河出書房新社、2016年)
- 泉鏡花『高野聖』(筑摩書房、1995年)
- 三島由紀夫「暁の寺」
- Bulgakov, *The Master and Margarita*
- William Morris, *The Well at the World's End* (Kelmescott Press, 1896)
- ヴァージニア・ウルフ『灯台へ』御輿哲也訳、岩波文庫、2004年
- D.リンゼイ『アルクトウルの旅』
- マチューリン『放浪者メルモス』
- トルーマン・カポーティ『ミリアム』
- D.H.ロレンス「喜びの幽霊」『D.H.ロレンス幻視譚集』(武藤浩史訳、平凡社、2015年)
- ディレイニー『ダールグレン I・II』大久保謙訳 (国書刊行会、2011年)
- コルタサル『パリにいる若い女性に宛てた手紙』木村榮一訳
- 小川洋子『密やかな結晶』(講談社文庫、1999年)
- イタロ・カルヴィーノ『見えない都市』米川良夫訳 (河出文庫、2003年)
- 上田秋成『雨月物語』
- 尾崎翠『第七官界彷徨』(河出文庫、1931年)
- 多和田葉子『献灯使』(講談社、2014年)
- ハーマン・メルヴィル『白鯨』
- ヘルマン・ブロッホ『ヴェルギリウスの死』川村二郎訳
- シェイクスピア『真夏の夜の夢』
- 夏目漱石「夢十夜」
- 泉鏡花『高野聖』
- 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』
- ダンテ『神曲』
- Henry James, *The Turn of The Screw*
- Bram Stoker, *Dracula*
- Mary Shelley, *Frankenstein*
- Horace Walpole, *The Castle of Otranto*
- サルマン・ラシュディ『真夜中の子供たち』



2022年の『ユリシーズ』—スティーヴンの読書会  
Wandering Books テーマ別作品リスト (2019~2022)

9. 「嘘」や「虚言」、「だまし」や「詐欺」が重要な役割を果たす作品—————

- トーマス・マン『詐欺師フェーリクス・クルルの告白』 岸美光訳 (光文社文庫)
- 新川真司『四月は君の嘘』 講談社
- ヘルマン・ブロッホ『ウェルギリウスの死』
- ジョナサン・スウィフト『ガリヴァー旅行記』
- 米原万里『嘘つきアーニャの真っ赤な真実』
- 「真面目が肝心」(オスカー・ワイルド『サロメ・ウィンダミア卿夫人の扇』 西村孝次訳、新潮社文庫)
- 映画『ソフィーの選択』
- エーコ『バウドリーノ』(堤康徳訳、岩波文庫)
- Keith Ridgway, *Never Love a Gambler* (New Directions, 2014)
- トーベ・ヤンソン『誠実な詐欺師』 富原真弓訳 (ちくま文庫)
- アガサ・クリスティ「アクロイド殺害事件」 大久保康雄訳 (創元推理文庫)
- Arther Miller, “The Crucible”
- エーコ『バウドリーノ』
- フィリップ・クローデル『リンさんの小さな子』 高橋啓訳 (みすず書房)
- 星野智幸『俺俺』(新潮社)
- ヴォルフガング・ヒルデスハイマー『詐欺師の楽園』 小島衛訳 (白水Uブックス)
- カズオ・イシグロ『日の名残り』 土屋政雄訳 (ハヤカワ epi 文庫)
- J.D.サリンジャー「ゾーイー」、『フラニーとゾーイー』 野崎孝訳 (新潮文庫)
- オスカー・ワイルド『真面目が肝心』
- アゴタ・クリストフ『第三の嘘』 堀茂樹訳 (早川書房)
- オスカー・ワイルド『ドリアン・グレイの肖像』
- ジェーン・オースティン『高慢と偏見』
- 夏目漱石『こころ』
- Brian Friel, *Translations* (Faber and Faber)
- 夢野久作『少女地獄』 角川文庫
- ハーマン・メルヴィル『詐欺師』 原光訳 (八潮出版社、1997年)
- 宮沢賢治『注文の多い料理店』(岩波書店、2000年)
- 宮部みゆき『ソロモンの偽証』(新潮社、2012年)
- 塩田武士『騙し絵の牙』(KADOKAWA、2017年)
- ヴォルフガング・ヒルデスハイマー『詐欺師の楽園』 小島衛訳 (白水社、2021年)
- 芥川龍之介『地獄変』
- ヘンリー・ジェイムズ「荒涼のベンチ」
- Iris Murdoch, *The Sea the Sea*
- 高木彬光『白昼の死角』

2022年の『ユリシーズ』—スティーヴンの読書会  
Wandering Books テーマ別作品リスト (2019~2022)

- 太宰治「嘘」
- シェイクスピア『リア王』
- 乾くるみ『イニシエーション・ラブ』
- ナボコフ『ロリータ』
- ウンベルト・エーコ『バウドリーノ』
- 村山由佳「嘘 love lies」
- カズオ・イシグロ『日の名残り』
- フランソワーズ・サガン『悲しみよ こんにちは』
- 映画『仕立て屋の恋』パトリス・ルコント監督

10. 「帰ること」に関する作品

---

- ホメロス『オデュッセイア』(松平千秋訳、岩波文庫)
- スウィフト『ガリバー旅行記』
- マーガレット・ミッチェル『風とともに去りぬ』大久保康雄役(新潮文庫)
- 安部公房『砂の女』(新潮文庫)
- 三田村信行『どこへもゆけない道』(『おとうさんがいっぱい』所収、理論社)
- トールキン『指輪物語』瀬田貞二、田中明子訳(評論社文庫)
- 金南天著「経営」(『韓国文学の源流 短編選 失花』)(書肆侃侃房、2020年)
- Margaret Mitchell, *Gone with the Wind*
- トルーマン・カポーティ『遠い声 遠い部屋』河野一郎訳(新潮文庫、1971年)
- 魯迅『故郷』藤田省三訳(光文社古典新訳文庫)
- Andy Weir, *The Martian*
- 芥川龍之介「トロッコ」(『日本現代文学全集 24 芥川龍之介集』講談社、昭和56年)
- 『それから』漱石
- 映画『猿の惑星』(1968年)
- 映画と小説『イングリッシュ・ペイシェント』
- ヘッセ『郷愁』高橋健二訳(新潮文庫)
- アゴタ・クリストフ『第三の嘘』堀茂樹訳(ハヤカワ epi 文庫)
- C.W.ニコル『勇魚』村上博基訳(文春文庫)
- 藤原てい『流れる星は生きている』(中公文庫)
- アーサー・コナン・ドイル「空き家の冒険」
- 大佛次郎『帰郷』
- Hemingway, "The Old Man and the Sea"
- アンドレ・ジイド『蕩児の帰宅』／『放蕩息子の帰宅』
- カルペンティエール『種への旅』鼓直訳、水声社(『時との戦い』所収)
- Colm Tóibín, *Brooklyn* (2009)

2022年の『ユリシーズ』—スティーヴンの読書会  
Wandering Books テーマ別作品リスト (2019~2022)

- 大沢在昌『走らなあかん、夜明けまで』(講談社文庫)
- 大沢在昌『日本一不運なサラリーマン』(講談社文庫)
- トニ・モリスン『ホーム』大社淑子訳
- 菊池寛『父帰る』
- ミラン・クンデラ『存在の耐えられない軽さ』
- サン=テグジュペリ『人間の大地』堀口大學訳(新潮文庫)
- 小松左京『復活の日』
- ミュージカル・映画『イン・ザ・ハイツ』
- ジャック・ロンドン『野生の呼び声』
- 太宰治『走れメロス』(新潮文庫)
- トールキン『指輪物語』
- Joseph O'Connor, "Star of the Sea"
- 倉本聰『北の国から』
- 李孝石『ソバの花の咲くころ』

11. 「女性の語り」が重要な役割を果たす作品-----

- ディケンズ『荒涼館』佐々木徹訳(岩波文庫、2017年)
- ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』丹治愛訳(集英社、1998年)
- アガサ・クリスティ『春にして君を離れ』中村妙子訳(早川書房)
- バッハマン『マリーナ』
- ストーカー『ドラキュラ』のミーナの語り
- マーガレット・アトウッド『侍女の物語』
- ベケット『わたしじゃない』
- 太宰治『女生徒』
- マリアマ・バー『かくも長き手紙』(講談社、1981年)
- ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』土屋政雄訳(光文社、2010年)
- 太宰治『女生徒』
- ソボクレス『アンチゴネー』
- 幸田文『流れる』(新潮文庫、1956年)
- 乾くるみ『イニシエーションラブ』(文春文庫、2007年)
- ローレンス・ダレル『アレクサンドリア四重奏』
- 太宰治『斜陽』(岩波文庫、1988年)
- ブロンテ『嵐が丘』河島弘美訳(岩波文庫、2004年)
- フランツ・カフカ『城』前田敬作訳(新潮文庫、1971年)
- シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』
- ジーン・リース『サルガッソーの広い海』小沢瑞穂訳(河出書房、2009年)

2022年の『ユリシーズ』—スティーヴンの読書会  
Wandering Books テーマ別作品リスト (2019~2022)

- チェーホフ『三人姉妹』
- 村上春樹、「眠り」
- 須賀敦子「38」「アヒルのヒトたちの話」、「影と涙」
- 村上春樹。『ねじまき鳥クロニクル』
- 高村薫「晴子情歌」(新潮文庫)
- 紫式部『源氏物語』
- 新井素子作品
- パール・バック『大地』小野寺健訳(岩波文庫、1997年)
- リラダン『未来のイヴ』齋藤磯雄訳(東京創元社、2016年)
- ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』土屋政雄訳(光文社古典新訳文庫、2010年)
- 太宰治『女生徒』(角川文庫、2009年)
- 川端康成「水晶幻想」『水晶幻想／禽獣』(講談社文芸文庫、1992年)
- Margaret Mitchell, *Gone with the Wind*
- 『青い目がほしい』トニ・モリスン
- マーガレット・アトウッド『誓願』鴻巣友季子訳
- エミリー・ブロンテ『嵐が丘』
- ネルシア『フェリシア、私の愚行録』福井寧役(幻戯書房、2019年)
- 太宰治「女生徒」
- 佐々木丸美『崖の館』
- カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』土屋 政雄訳(ハヤカワ epi 文庫 2008年)
- 桐野夏生『グロテスク』
- Melissa Lucashenko, *Too Much Lip*, 2018
- 柴田翔『されどわれらが日々』(第六章「節子の手紙」)
- Toni Morrison, *Beloved*, 1987
- デフォー『モル・フランダーズ』伊澤龍雄訳(岩波文庫、1968年)
- イアン・マキューアン『贖罪』小山太一訳(新潮文庫、2018年)
- カズオ・イシグロ『私を離さないで』
- 永井路子『北条政子』(講談社、1979年)
- 「更級日記」
- 村田沙耶香『コンビニ人間』
- Virginia Woolf, "Mrs. Dalloway"
- アリソン・ベクダル『ダイクス・トゥ・ウォッチ・アウト・フォー』
- 紫式部『源氏物語』
- 紀貫之『土佐日記』
- 藤原道綱母『蜻蛉日記』
- 菅原孝標女『更級日記』

2022年の『ユリシーズ』—スティーヴンの読書会  
Wandering Books テーマ別作品リスト (2019~2022)

- ミヒャエル・エンデ『モモ』
- M・デュラス『愛人』 清水徹訳 (河出文庫、1992年)
- 太宰治『女生徒』
- ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』
- 藤原道綱母『蜻蛉日記』
- 菅原孝標女『更級日記』
- 和泉式部日記
- 紫式部日記
- 後深草院二条『問はず語り』
- Sylvia Plath, 'Daddy,' "Ariel"
- マリアマ・バー『かくも長き手紙』 (講談社、1981年)
- ストーカー『ドラキュラ』(※ミーナの語り)
- フランソワーズ・ジロー、カールトン・レイク『ピカソとの日々』野中邦子訳(白水社、2019)
- カズオ・イシグロ『遠い山並の光』
- エミリー・ブロンテ『嵐が丘』 鴻巣友季子訳 (新潮文庫、2003年)
- 紫式部『源氏物語』
- モーリヤック『テレーズ・デスケイルウ』
- イシグロ『わたしを離さないで』 土屋政雄訳 (早川書房、2006年)
- 有吉佐和子「亀遊の死」(『三婆』新潮文庫所収)
- 太宰治『女生徒』
- メアリー・シェリー「マチルダ」市川純訳 (彩流社、2018年)
- ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』 土屋政雄訳 (光文社、2010年)
- フローベール『ボヴァリー夫人』 伊吹武彦訳、『フローベール全集』(筑摩書房 1965年)
- ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』
- フランツ・カフカ『城』
- トーベ・ヤンソン『トーベ・ヤンソン短編集』
- ステファヌ・マラルメ「最新流行」『マラルメ全集 III』(筑摩書房、1998年)
- 森崎和江『まっくら』
- エミリー・ブロンテ『嵐が丘』
- 岡部伊都子『沖縄の骨』
- トニ・モリスン『青い目が欲しい』